

二〇一九年一〇月一日(参加者二四名)

長き夜や術後の麻酔覚めてより	素 秀
ご無沙汰の文綴りをる夜長かな	明日香
碧落に鷺を放ちし大花野	智恵子
露地奥に古書肆の点る夜長かな	よし子
古い母の話し相手となる夜長	わかば
集合の笛の吹かるる花野かな	たか子
古戦場跡と碑の立つ大花野	隆 松
夕餉終へ独り暮しの夜の長し	はく子
晩学の一人の夜長愉しめり	はく子
獣道抜けければ突と大花野	うつぎ
誰からとなく唄ひ出す花野道	うつぎ
旅夜長一会の人と杯重ね	菜 々
音のせぬ電波時計や夜の長し	よう子
古日記読み返しをる夜長かな	たか子

WEB句会みのる選・二〇一九年一〇月一日